小児形成外科

1．スタッフ（平成28年４月１日現在）

科　　長（教授・兼）　　吉村浩太郎
医　　員（准教授・兼）　宇田　宏一
医　　員（講師・兼）　　去川　俊二
医　　員（病院助教・兼）須永　　中
医　　員（病院助教・兼）加持　秀明
医　　員（客員教授・兼）菅原　康志
シニアレジデント　　３名

2．診療科の特徴

形成外科は、主に身体の造形に基づく問題を解決することによって、対象組織の機能や患者のQOLを改善することを目指す。小児形成外科では、造形に関わる先天性疾患、すなわち生下時からの頭蓋顎顔面や四肢の変形・欠損、皮膚のあざなど、15歳未満の患者を対象としている。本センター当科の特徴は以下の通りである。

１）唇顎口蓋裂の治療においては、形成外科・歯科口腔外科・矯正歯科・耳鼻咽喉科・言語聴覚士・臨床心理士らによって構成される口蓋裂ケアチーム（CCT：Cleft Care Team）による集学的治療が可能であることが、本センター最大の強みである。2015年における唇顎口蓋裂関連手術は53件（本院の15歳以上を入れると60件）であり、唇顎口蓋裂の初回手術患者数は32人であった。出生数あたりの唇顎口蓋裂の有病率は500分の１であり、平成26年度における栃木県の出生数は15442人であるため、栃木県のほぼ全症例を網羅しているものと考えられる。今後はさらに近隣県からの紹介が増えるようにしたいと考えている。

２）頭蓋縫合早期癒合症に対する新規手術治療として、2003年よりMCDO法というオリジナルの術式を開発・施行しており、従来法より優れた治療成績を上げている。本学での施行症例は合計54例であり、2015年の施行件数は７例で増加傾向にある。今後希少疾患の集約化により紹介患者数の増加が予想される。

３）四肢先天異常やその他の先天異常（先天性眼瞼下垂・小耳症・埋没耳など）、あざなどの良性腫瘍に関しては、全身麻酔手術枠の不足のために当院で消化できず、主に連携病院にて当科スタッフが手術を施行しており、その症例数は2015年で32件であった。

・施設認定

日本形成外科学会認定専門医制度指定認定施設

・専門医

日本形成外科学会専門医　吉村浩太郎
宇田　宏一
去川　俊二
須永　　中
加持　秀明
菅原　康志
日本皮膚腫瘍外科学会専門医　吉村浩太郎
日本創傷外科学会専門医　吉村浩太郎
日本美容外科学会教育専門医　吉村浩太郎
日本頭蓋顎顔面外科学会専門医　宇田　宏一
菅原　康志

・評議員

日本形成外科学会評議員　吉村浩太郎
日本オンコプラスティックサージャリー学会評議員
吉村浩太郎
宇田　宏一
日本再生医療学会評議員　吉村浩太郎
日本抗加齢医学会評議員　吉村浩太郎
日本創傷外科学会評議員　吉村浩太郎
日本美容外科学会評議員　吉村浩太郎
日本頭蓋顎顔面外科学会評議員　宇田　宏一
菅原　康志

3．診療実績・クリニカルインディケーター

1）新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数　96人
再来患者数　953人
紹介率　86.4％（形成外科全体データ）

外来担当医師
毎週月曜日：須永　　中
毎週木曜日：加持　秀明
不　定　期：菅原　康志（再来のみ）

2）入院患者数（平成27年１月～12月）

入院患者数　88名

3）術式別手術件数（平成27年１月～12月）

術　式	手術件数
口唇裂初回手術	28
口蓋裂初回手術	13
口唇鼻形成術(唇顎口蓋裂術後)	9
咽頭弁形成術	3
頭蓋骨形成術（MCDO法）	7
頭蓋骨形成術（その他）	1
上顎骨形成術(骨移動を伴う)	1
四肢先天異常・形成術	11
耳介形成術	2
良性腫瘍切除術	4
その他	8
合　　計	83

4）その他の治療・検査

なし

5）術後死亡症例

なし

6）カンファランス症例

毎週水曜午後６時～（第４水曜のみ午後７時～）

形成外科カンファランス：全手術症例
第４水曜午後６時～

口蓋裂ケアチームカンファランス：唇顎口蓋裂症例

4．事業計画・来年の目標等

1）新来患者数、紹介患者数の増加
2）集学的治療による唇顎口蓋裂治療の術後成績向上
3）頭蓋縫合早期癒合症の手術症例数増加
4）手術枠の獲得による本院内の手術件数増加
5）地域の連携病院（新小山市民病院､芳賀赤十字病院、新上三川病院）との連携促進